

受賞

最高裁判所長官表彰を受けて

矢作和久



昨年の10月に、最高裁判所から長官表彰を受け、桐の紋の入った「金杯」を頂戴しました。直径が10センチ程の立派なもので、金製だったら大変な価値でしょうが、当然のこととして鍍金です。でも感激しています。

サーツの何人かの方々と一緒に、東京地方裁判所で民事調停委員の面接試験を受けたのが、2000年の2月です。面接者は裁判官ですから、正に「人定尋問」で驚きましたが、誰も落ちることなく、4月には最高裁判所名で「民事調停委員に任命する。東京地方裁判所及び東京簡易裁判所所属とする」という辞令を頂戴しました。非常勤の国家公務員という立場になって、10年です。担当した事件数は、130件まで数えましたが、以後、数えるのを放棄してしまいましたので何件になったのか解りません。200件は超えていると思います。担当事件数は、同時に任命された人の中では多い方だと思います。好奇心と野次馬根性を刺激

してくれる、良い経験をさせていただきました。

実は、1昨年の秋に、(財)日本調停協会連合会から理事長表彰を受けています。何れも長くやった人が対象になる「沢山やってくれました。ご苦労さま」という表彰です。まだ元気ですので、調停委員を続けたいと思っているのですが、「ご苦労さま」「ご苦労さま」と言われているようで、もう「上がり」かなと寂しい気もしています。現在72歳です。原則として70歳が定年だそうで、再任の希望を出していますが、どうなりますか。

昨年、雑誌「建築技術」10月号の「サーツニュース」に、「サーツの司法支援活動」というコメントを書かせていただきました。ご一読頂けると幸いです。東京地方裁判所の「専門委員」に再任するという連絡を、この1月に受けています。もうしばらく、司法支援活動を続けようと考えています。



記念の金杯